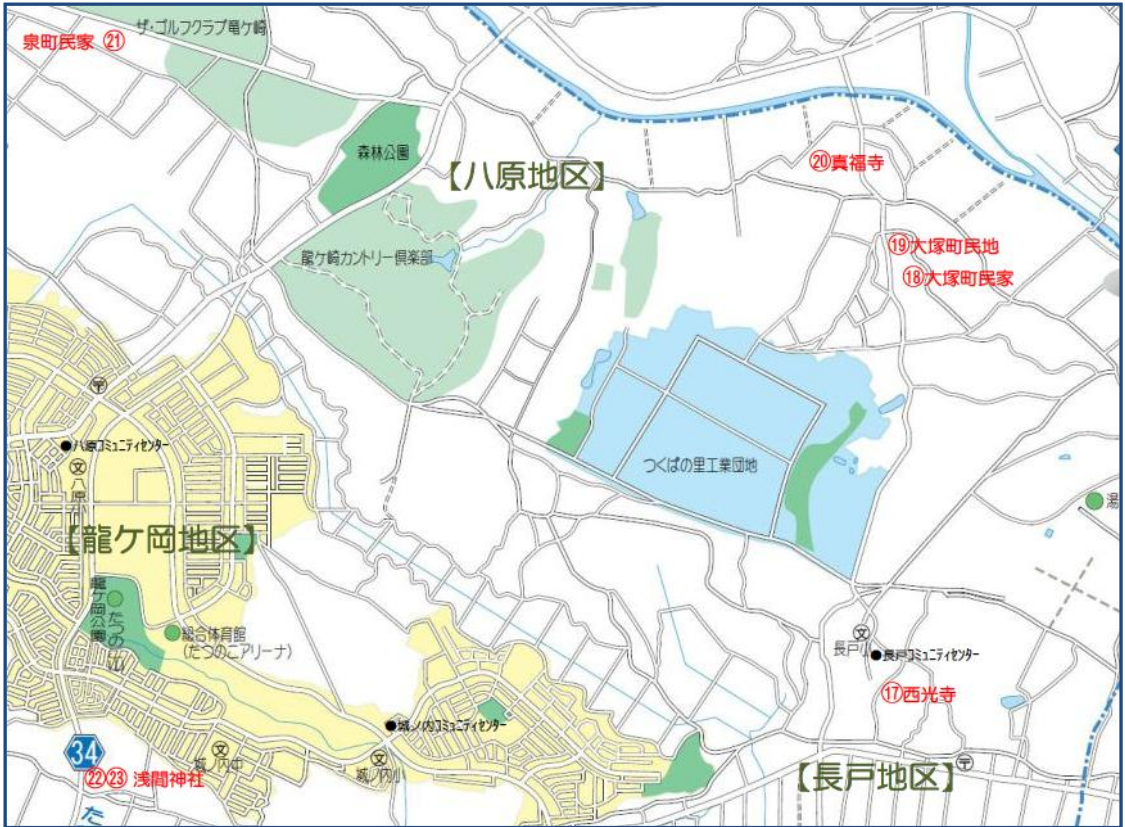


龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 3

【長戸・八原・龍ヶ岡地区】



① スダジイ

② イチョウ

③ ヒイラギ

④ カンザンチク

⑤ クワ

⑥ ケヤキ

⑦ スダジイの森

スタジイ

【ブナ科シイ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【長戸地区】⑰

樹高/ 15m 幹周り/ 450cm

推定樹齢/ 350年

場所/ 西光寺(塗戸町)



■フクロウの棲んだ

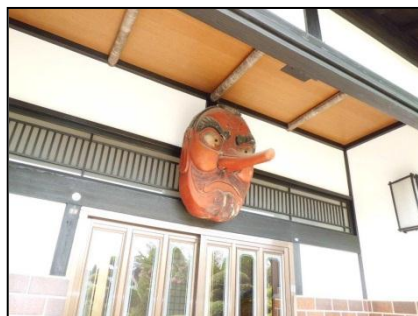
西光寺の椎(しい)■

龍ヶ崎潮来線(主要地方道5号)の半田交差点を左に曲がり、すぐ旧道を右に行った先の左手に里山があります。その里山の鬱蒼とした森の中に西光寺があります。

西光寺はもともと山岳宗教で、570年から580年前に建てられおり、スタジイは防火樹、防風樹として利用されたことから、寺に植えることが広がったといわれています。

西光寺のスタジイの木は2本とも上の枝が伐採されていますが、伐採前はフクロウが棲んでいたそうです。

また、西光寺の庫裏の玄関には大きな天狗のお面が飾られ、皆を迎えています。



カンザンチク

【イネ科メダケ属】

データ

探訪マップ【長戸地区】⑩

■昭和 55 年 3 月 18 日天然記念物
龍ヶ崎市指定文化財に指定
場所 / 大塚町民家(大塚町)



■大塚の寒山竹（かんざんちく）■

里山の中にある大塚地区は閑静な森の中の集落で、このほかにも多くの巨樹、古木があります。

小野川沿いの台地にある民家のカンザンチクは、15m 程道路に沿って密生して連なり、落ち着いた路地の雰囲気醸し出しています。また、その先を約 100m 歩くとケヤキの巨樹を見ることができます。



ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

データ

探訪マップ【長戸地区】⑱

樹高/ 20m 幹周り/ 370cm

推定樹齢/ 350年

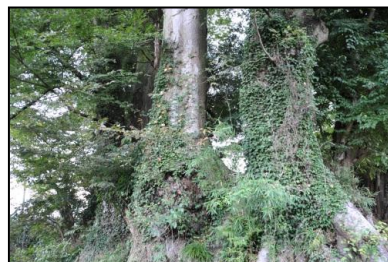
場所/ 大塚町民地(大塚町)



■大塚の樺（けやき）三兄弟■

ケヤキの巨樹が大地を蹴り、天に向かって雄々しく並び立つ姿は壮観です。孤樹が放つ孤高の風格、威厳というものよりは、どこか、大らかさと温もりの漂う樹々です。独特の根連なりは、350年余り(推定樹齢)の歳月を「兄弟」仲良く寄り添い、力を合わせたくましく生き抜いてきたいのちの輝き、絆の力強さを感じます。

ケヤキは日本の代表的な広葉樹で、木目も美しく、材質に狂いがなく湿気にもよく耐え保存性が高いので用途が広く建築材、彫刻材、庭木などに用いられます。人との関わる歴史は古く、シンボルの木として県や市町村が指定する例も多く、著名なケヤキ並木、ケヤキ坂、ケヤキ通りなど街路樹として文化的景観保全の役割を果たしています。



イチヨウ

【イチヨウ科イチヨウ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【長戸地区】⑳

樹高/ 35m 幹周り/ 510cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 真福寺(大塚町)



■大塚、真福寺の大銀杏（おおいちょう）■

真福寺の門を入り、左手に、見る人を包み込んでくれるような、威厳のあるイチヨウの巨樹が目飛び込んできます。まさに近隣自慢の巨樹です。

また真福寺には、火伏地蔵尊、通称「大塚の愛宕様」と呼ばれるお地蔵様が祀られています。晩秋には、御堂の屋根も境内もすべてが金色の落葉で輝きます。

イチヨウの木は放置しても樹姿が整っていて、また、火事が起こっても類焼を防ぐ防火壁となるような防火性があります。

伝承では、祭りの日に酒盛りをしていた家が火事になってしまい、酒を飲まなかった家が助かったという伝説があり、いまでも地元の人々は毎月24日はお酒を飲まないそうです。

この巨樹のすくくと伸びた荘厳なたたずまいは、大塚の地を守っているようです。



クワ

【クワ科クワ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【八原地区】②

樹高/ 15m 幹周り/ 380cm

推定樹齢/ 100年

場所/ 泉町民家(泉町)



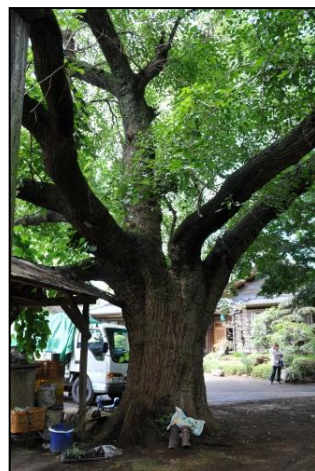
■開拓とともに、野風の大桑（おおくわ）■

野風（のおろし）の大クワは日本一の「薄根の大クワ」には劣るも樹容は重厚です。かつて米と並び農業の二本柱であった養蚕は、日本の近代化産業の礎を築いた紡績業を支えてきました。近くには終戦から復興期にこの地で農耕に生きる決意を固めた人々の名を刻んだ「開拓記念碑」があります。

碑文には荒野開拓の苦闘の年月がにじんでおり、県西の鬼怒川沿いを舞台に土に生まれ、土と闘う農民の姿を精緻に描いた長塚節の小説「土」の世界とも重なります。

人間生存の根源としての「農」、「土」そして「生命」。その結びつきを失いつつある今、改めて歴史に学び、泰然とした大クワのように大地を踏みしめ歩きたいものです。

クワの葉は蚕の重要な飼料で、果実は甘味があり、生色、桑実酒の材料になります。樹皮は布、ロープ、和紙に利用されます。



スタジイの森

【ブナ科シイ属】

データ

探訪マップ【八原地区】②

■平成 17 年 6 月 9 日 県指定
「八代富士浅間緑地環境保全地域」
場所/ 浅間神社(八代町)

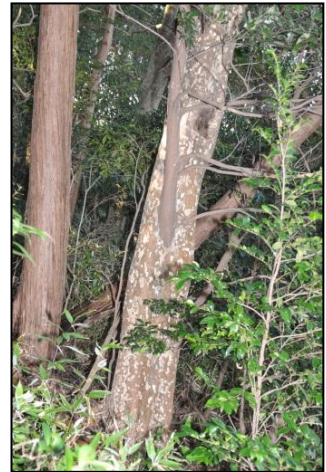


■八代、浅間様（せんげんさま）の森■

浅間様境内のミニ富士山はこんもりとした森となっており、平成 17 年県指定の「八代富士浅間緑地環境保全地域」になりました。

その森はスタジイが多く幼木も見られ、アカガシ、ヤマザクラ、シラカシ、モチノキ、カクレミノ、スギ、ツバキなどが生育しています。特筆すべき樹木として、カゴノキ（鹿子の木）があります。樹皮が白色で鹿の子模様に目立つのが特徴です。

富士浅間神社は鎌倉時代、正治 2 年（1200 年）の創建で、木花開耶姫をご神体とし「子育ての神様」といわれています。すり鉢状の頂上には祠が鎮座し、旧暦 6 月 11 日の「初山詣り」には子供の成長を祈るため、多くの親子で賑わいます。



【カゴノキ】



ヒイラギ

【モクセイ科モクセイ属】

データ

探訪マップ【八原地区】②

樹高/ 10m 幹周り/ 220cm

推定樹齢/ 450年

場所/ 浅間神社(八代町)



■八代、浅間様の厄除け柁（ひいらぎ）■

魔除けには表鬼門（北東）にヒイラギが良いと、信じられ、節分の夜、ヒイラギの枝と大豆の枝に鰯の頭を門戸に飾ると邪鬼を払うといわれています。

ヒイラギはモクセイ科の常緑高木で葉には光沢があり、鋭い棘があります。秋には、米粒大の白い小花が咲き、良いにおいを放ちます。

材は目が緻密で将棋の駒、算盤（そろばん）の玉などに利用します。クリスマスの飾りに使うヒイラギはセイヨウヒイラギです。

このヒイラギの葉には棘はありませんが、これは古木のあかしともいわれています。

